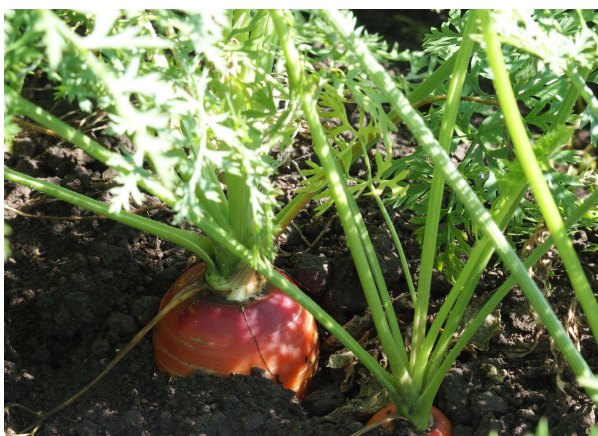
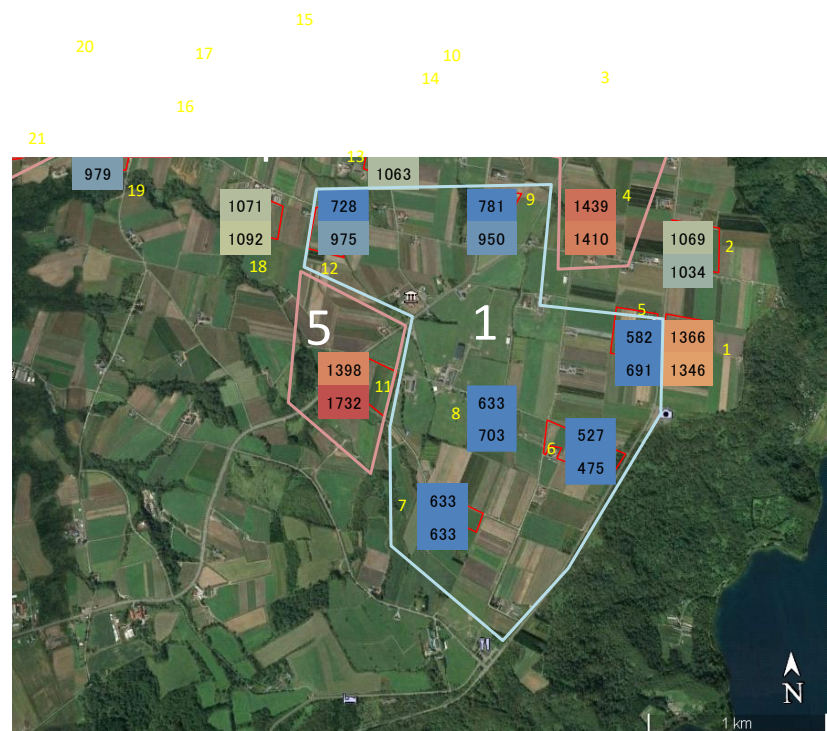


洞爺湖町

土壌特性マップ



成香地区の土壌特性



地域	pH	EC	Tr-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
1	6.24	0.032	58	229	31.0	39.4	14.1	3.1	647	3.03
2	6.01	0.063	13	163	26.1	45.9	18.4	2.0	1590	3.77
3	6.28	0.067	24	225	37.9	60.8	19.1	2.8	1449	4.05
4	6.16	0.066	38	251	30.1	47.7	18.1	3.0	1169	3.90
5	6.15	0.046	17	179	34.3	42.0	18.2	2.5	1398	3.89

成香地区の土壌特性について、リン酸吸収係数の分析結果から地域を区分けし、区分けした5つの地域の分析結果の平均値を表で示した。

地区全体でリン酸吸収係数が高めであり、有効態リン酸が不足傾向となっている。

【地域1】リン酸吸収係数が低く、リン酸がもつとも高い地域だが、CECと腐植の値はほかの地域と比べると低い傾向がある。

【地域2】リン酸吸収係数が高く、リン酸と熱水抽出性窒素が低い結果となり、石灰と苦土は他の地域より低い。

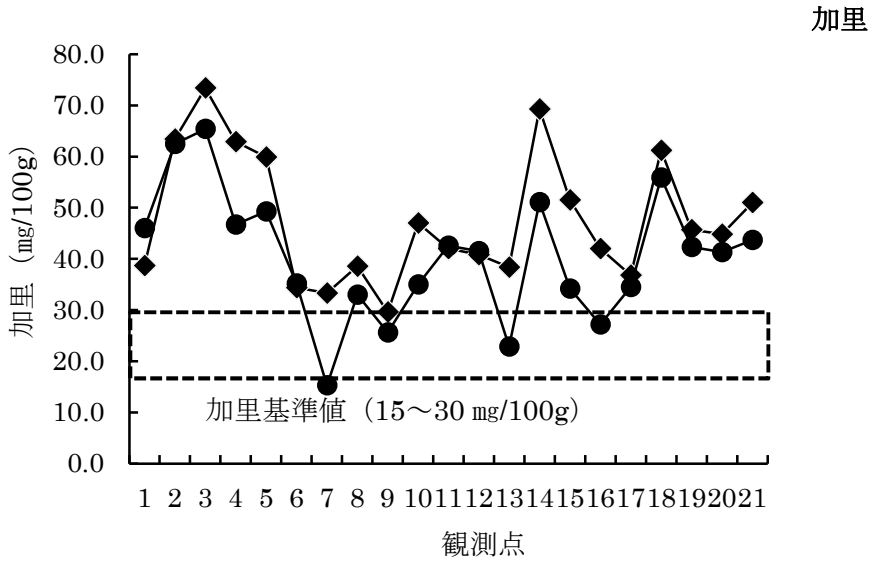
【地域3】リン酸吸収係数とCECが高く、腐植に富んだ地域である。

【地域4】地域2、3、5に比べるとリン酸級数係数が若干低く、その影響でリン酸の数値が高めとなっている。

【地域5】地域2と同様、リン酸吸収係数が高めで、リン酸と熱水抽出性窒素が低い傾向となっている。

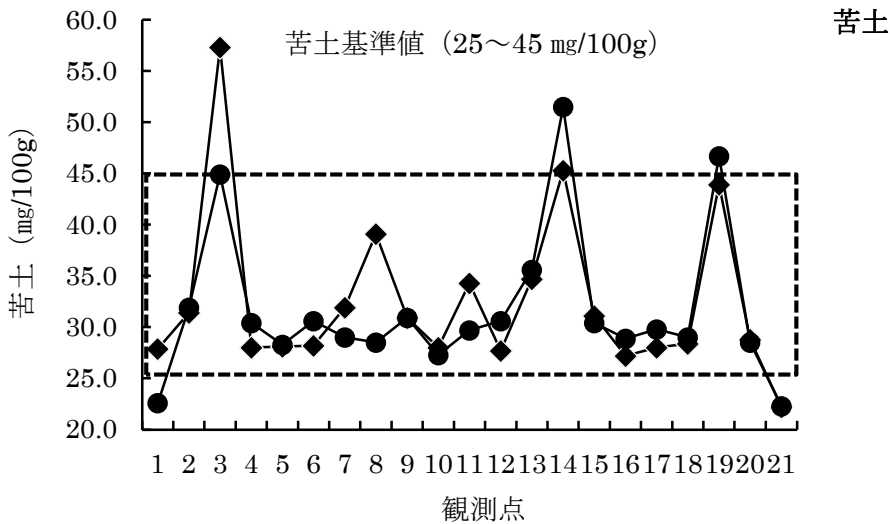
◆ カリウム

0—20 cm (◆)ではほとんどの観測点で基準値を超えている。20—40 cm (●)でも基準を超えている地点が多くみられる。



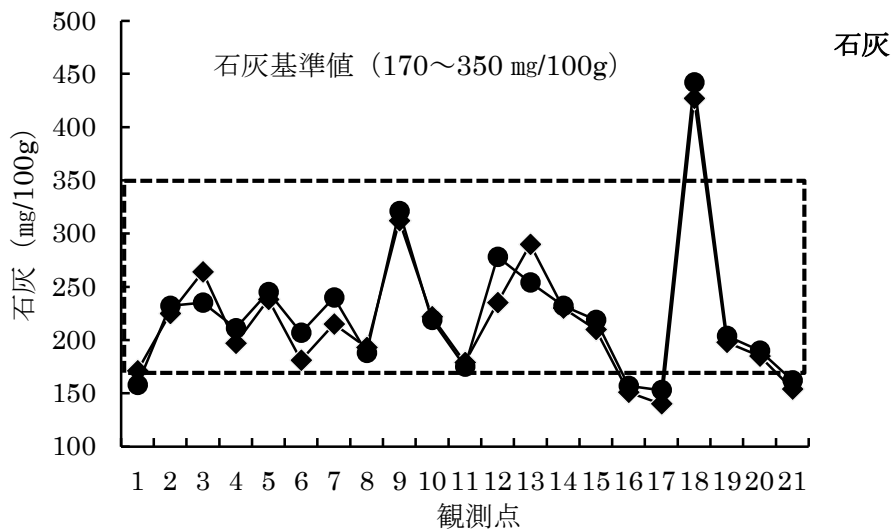
◆ マグネシウム

マグネシウムはほとんどの観測点で基準値内で推移している。

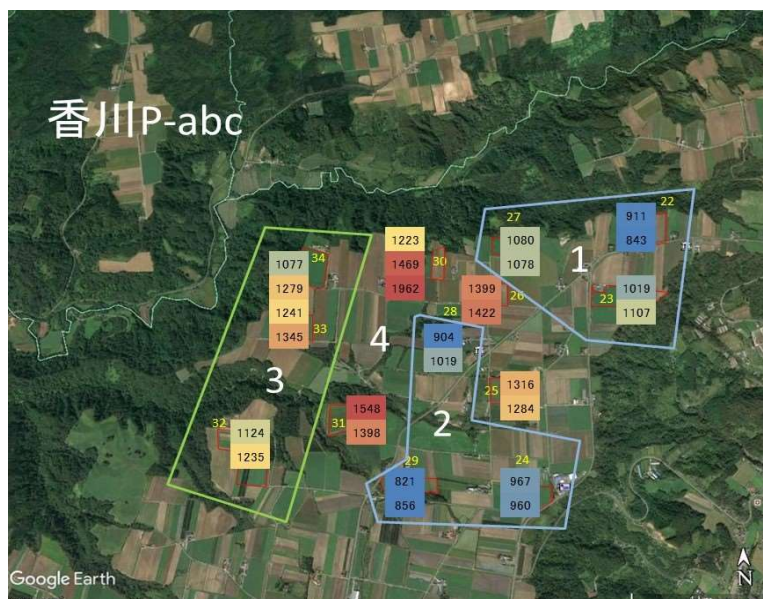


◆ カルシウム

カルシウムはほとんどの観測点で基準値内で推移している。



香川地区の土壌特性



地域	pH	EC	Tr-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
1	5.79	0.057	34	169	29.2	49.6	16.3	2.9	1061	3.98
2	5.79	0.054	35	183	27.2	43.8	16.2	2.8	897	3.72
3	5.94	0.074	33	205	42.0	56.9	18.0	3.2	1147	4.22
4	6.15	0.081	16	265	16.3	38.9	16.5	1.9	1372	3.30

香川地区の土壌特性についてもリン酸吸収係数の分析結果から地域を区分けした。区分けした4つの地域の分析結果の平均値を表で示した。

香川地区も成香地区同様、リン酸吸収係数が高めの区域が多く、有効態リン酸が低めに推移している。

【地域1】リン酸吸収係数が地域内でも低いところで、リン酸も高めの数値が出ており、腐食も高い傾向にある。

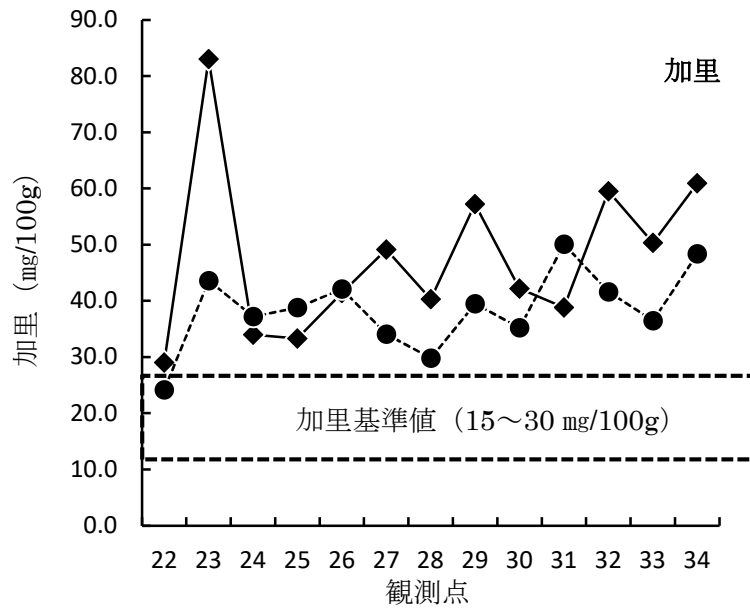
【地域2】リン酸吸収係数が最も低く、それに伴いリン酸は最も高い数値を示している。

【地域3】この地域で最もCECが高く、腐植に富んだ地域であることがわかる。

【地域4】リン酸吸収係数が高く、リン酸、熱水抽出性窒素、腐食が最も低い地域となった。

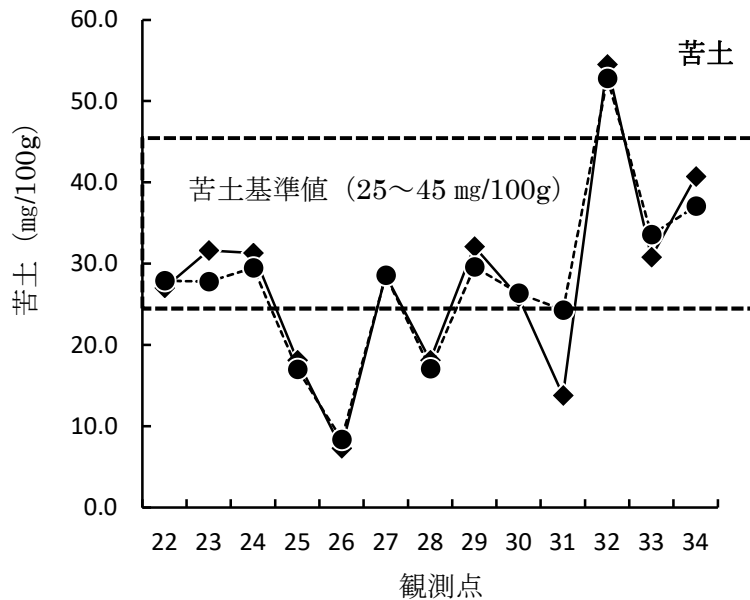
◆カリウム

採取土 0—20 cm (◆) 及び 20—40 cm (●) の両方ではほぼ基準値を超えている地点が多くみられた。



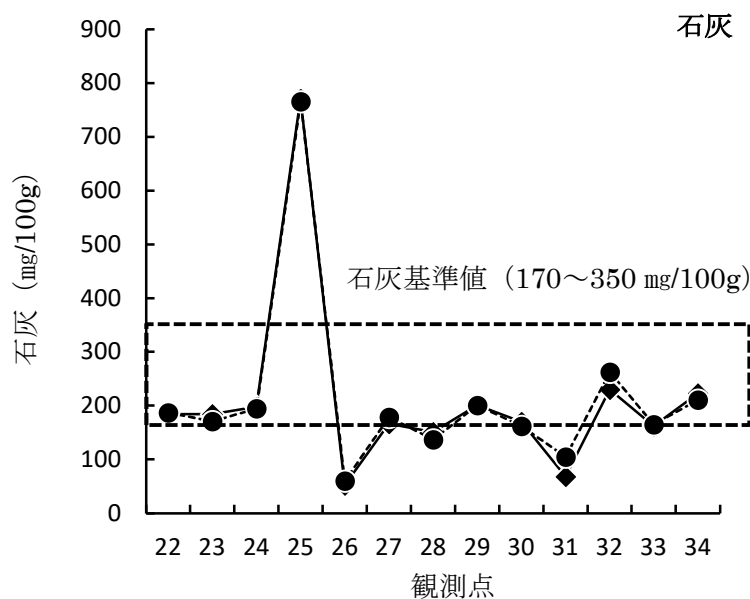
◆マグネシウム

マグネシウムはほとんどの観測点において基準値内で推移しており、問題はないと思われる。

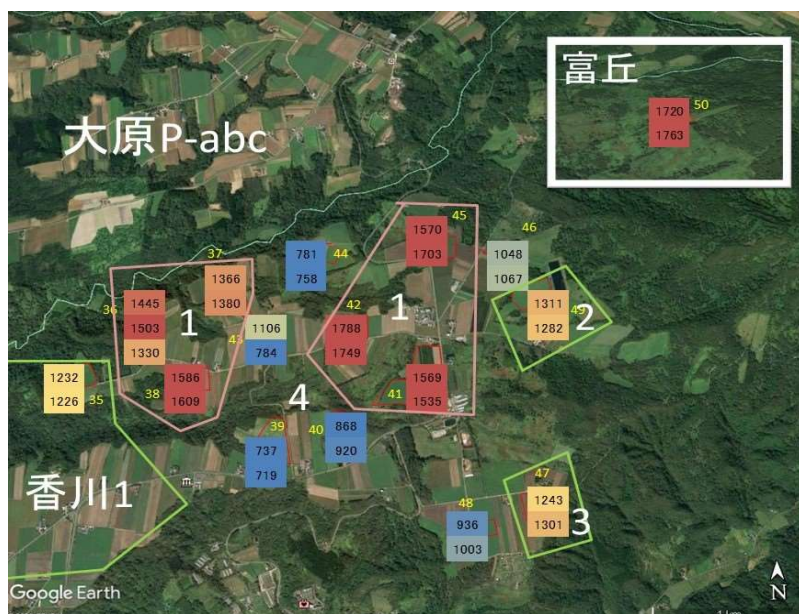


◆カルシウム

カルシウムはほとんどの観測点において基準値内で推移している。



大原地区の土壌特性



地域	pH	EC	Tr-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
1	5.52	0.079	15	83	16.0	41.7	16.5	1.5	1554	4.51
2	5.63	0.048		83	14.5	243.0	14.0	2.1	1311	2.63
3	6.10	0.044	44	220	47.7	26.4	16.2	3.0	1243	3.43
4	6.00	0.043	39	178	28.4	37.9	15.1	3.9	886	3.74
富丘	6.06	0.237	60	384	55.9	60.8	23.8	7.2	1720	3.66

大原地区の土壌特性についてもリン酸吸収係数の分析結果から地域を区分けした。区分けした4つの地域と富丘地区の分析結果の平均値を表で示した。

成香・香川地区と比べてリン酸吸収係数は同程度だが、CECが低い傾向にある。

また、石灰と苦土が低く、pHの低い地点が見られる。

【地域1】リン酸吸収係数が地域内でも高い数値を示しており、腐食は高い傾向があるが、リン酸の数値が低く、石灰とpHも低く熱水抽出性窒素は地区内で最も低い数値を示している。

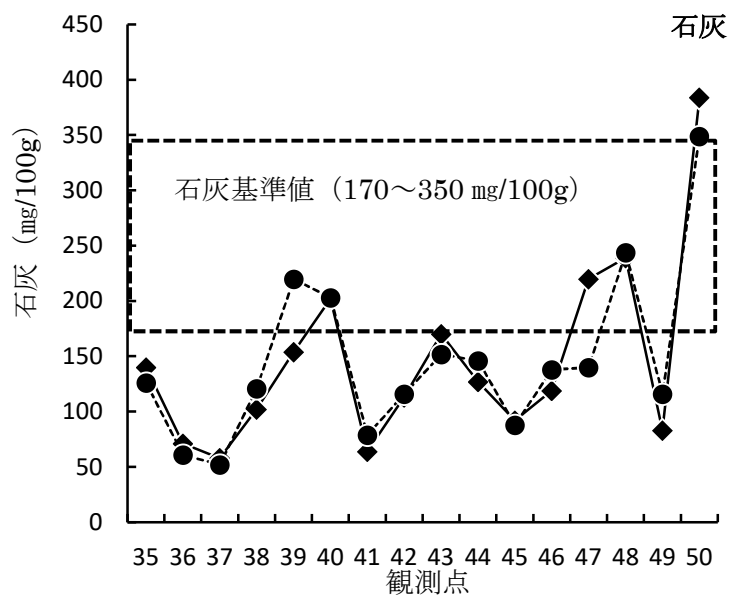
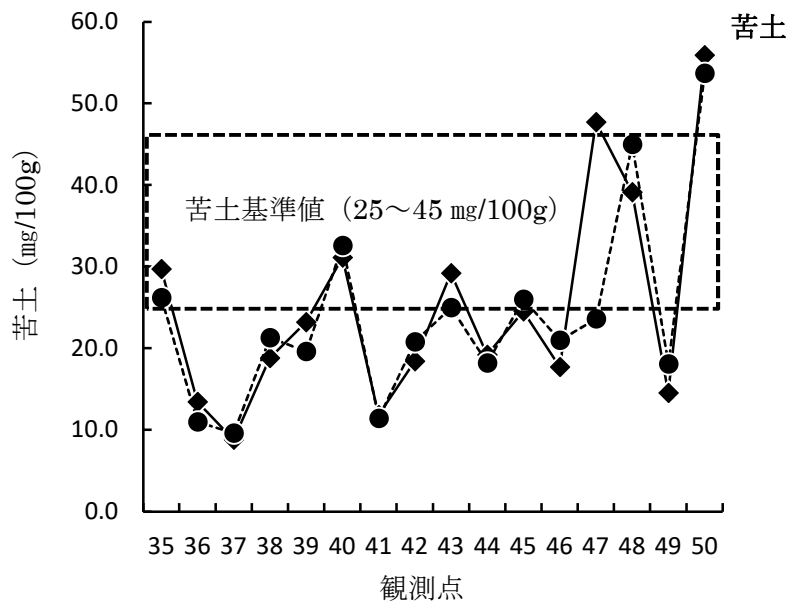
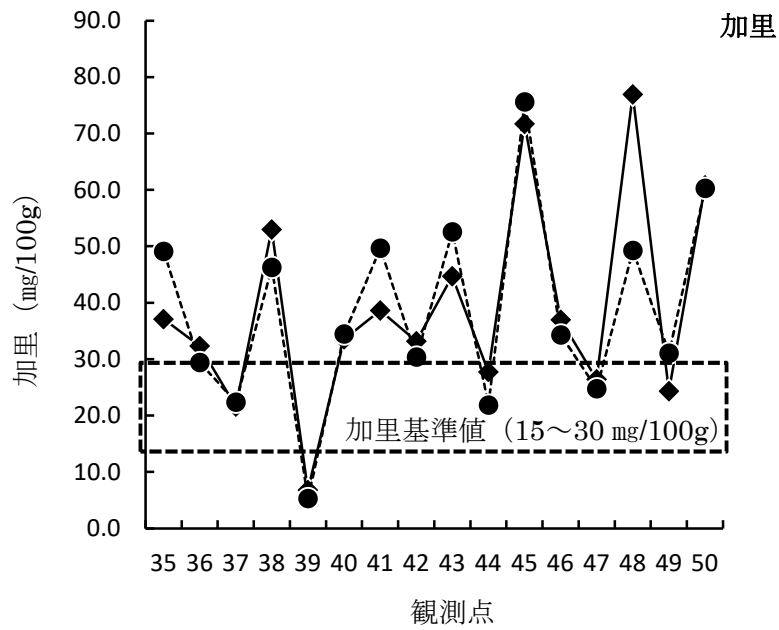
【地域2】CECとリン酸が地区内で最も低く、腐食性と苦土、石灰、pHも低いが、加里は高い。

【地域3】この地域で最も平均pHが高い。

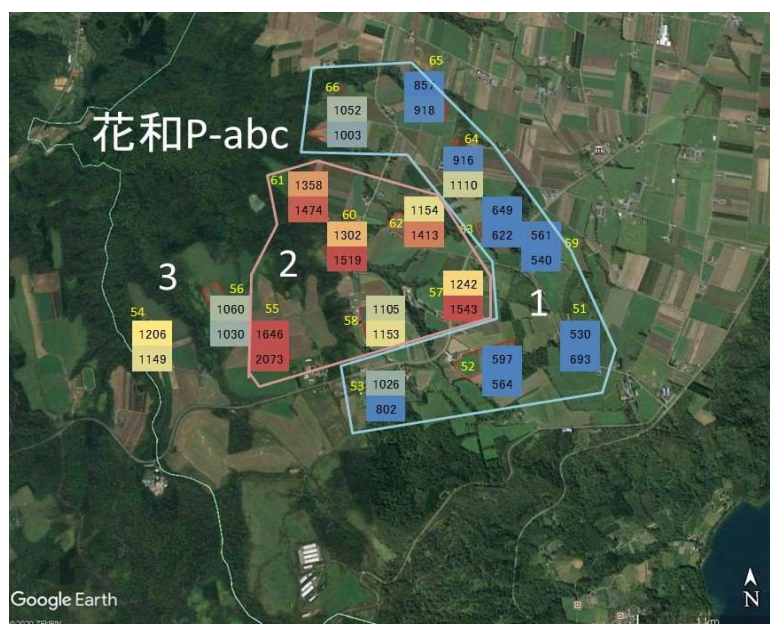
【地域4】リン酸吸収係数が最も低く、熱水抽出性窒素も高めの傾向が出ている。

【富丘地区】リン酸吸収係数とCECが他の地区と比べて高いが、リン酸も高く、その他の項目も軒並み高い状態である。

これは地点数が1箇所であること、セルリー圃場特有のものであることを考慮する必要がある。



花和地区の土壤特性



地域	pH	EC	Tr-P	Br-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
1	6.39	0.080	47	119.9	256	32.9	42.9	14.0	4.6	774	2.98
2	6.82	0.085	24	75.1	370	25.3	41.9	18.1	4.4	1301	3.57
3	6.30	0.087	23	97.7	279	22.5	29.5	16.6	4.4	1133	4.70

旧虻田町で唯一、国道230号線沿いの高台に位置する花和地区の土壤特性についてもリン酸吸収係数の分析結果から地域を区分けした。

区分けした3つの地域と富丘地区の分析結果の平均値を表で示した。

また、リン酸吸収係数は他地区と同程度だが、熱水抽出窒素は高い。

【地域1】リン酸吸収係数が地域内でも低いことでリン酸が地区内では突出して高い数値を示している。

花和地区全体にいえることとしてはpHが高い。

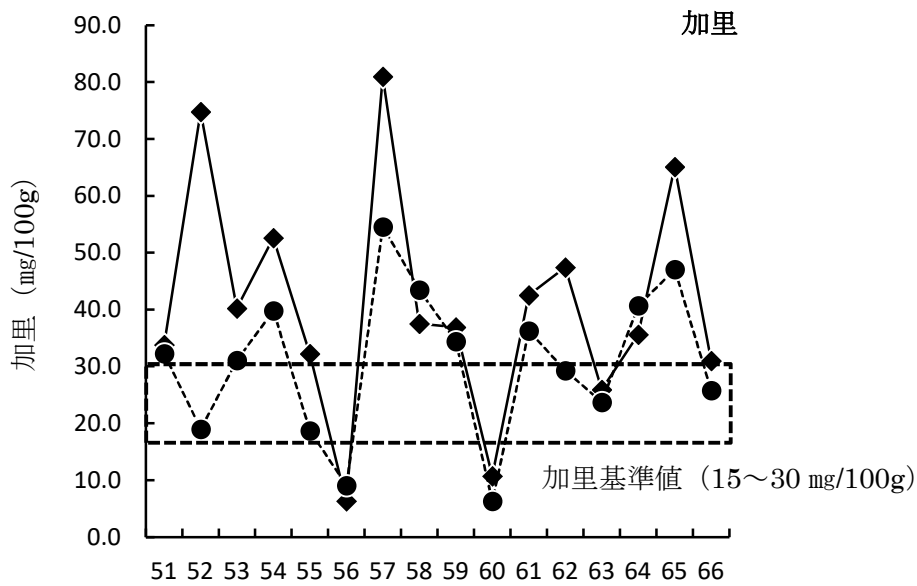
腐食は高い傾向にあり、熱水抽出性窒素は地区内で最も高い数値を示している。

【地域2】リン酸吸収係数が地区内で最も高いことから、リン酸は地区内で最低値となっている。pHは7に近い数値となっているため、そうか病などの疫病発生を誘発する可能性がある。

【地域3】熱水抽出窒素と腐食性が地域内で最も高い。

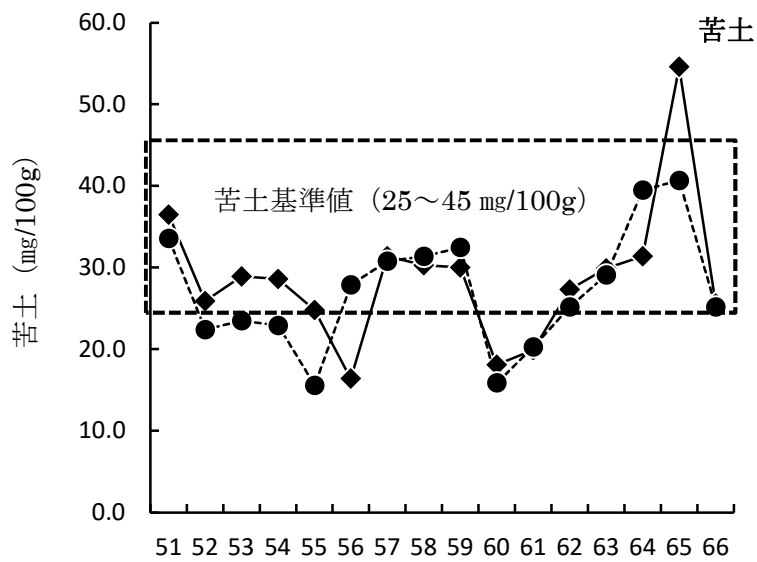
◆カリウム

採取土 0—20 cm (◆) 及び 20—40 cm (●) の両方では基準値を超えている地点が多くみられたことから、全体的に施肥設計の見直し等改善が必要と思われる。



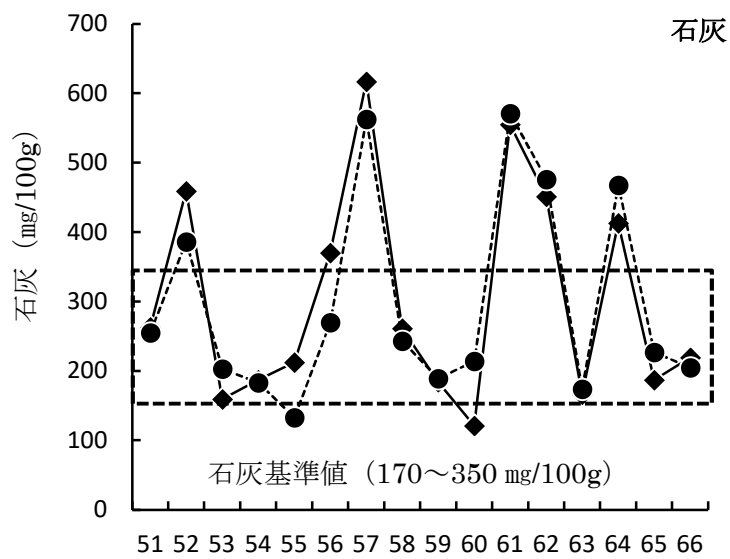
◆マグネシウム

マグネシウムは大半の観測点で基準値の範囲内に収まっている。



◆カルシウム

カルシウムは大半が基準値の範囲内に収まっているが、一部過剰を示す地点があることから注意深く監視する必要がある。



月浦地区の土壤特性



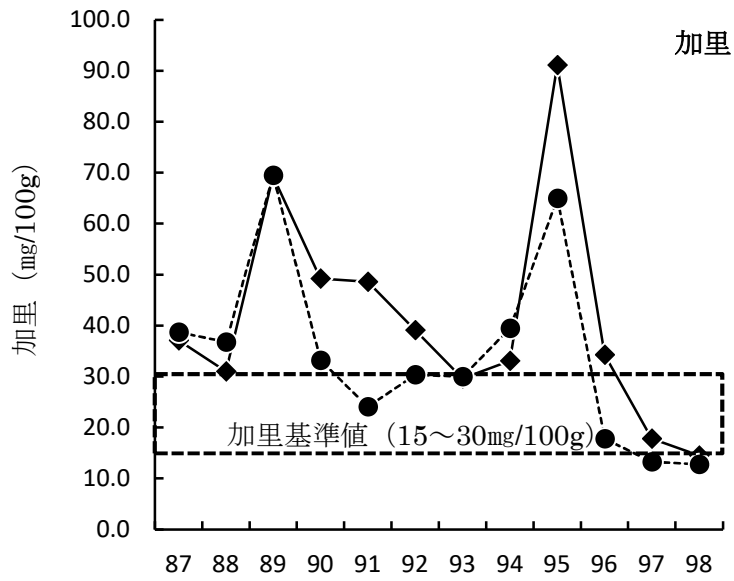
地域	pH	EC	Br-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
月浦	6.16	0.039	75	205	36.7	47.0	12.6	4.5	523	1.81

洞爺湖町月浦地区は洞爺高台地区から洞爺湖畔へと続く斜面に農地が点在し、主に水稻や野菜、果樹等が栽培されている。傾斜に農地があるため水はけがよく、南斜面であるため日当たりもよい。しかし、圃場のひとつひとつが狭く、作業効率もあまりよくはない。本地区はリン酸吸収係数は低く、リン酸は高い。腐植は低いものの熱水抽出窒素は高い。加里、苦土、石灰は適正からやや高い数値を示している。

◆カリウム

採取土 0—20 cm (◆) 及び 20—40 cm (●) の両方ではほぼ基準値を超えている地点が多くみられたことから、全体的に施肥設計の見直し等改善が必要と思われる。

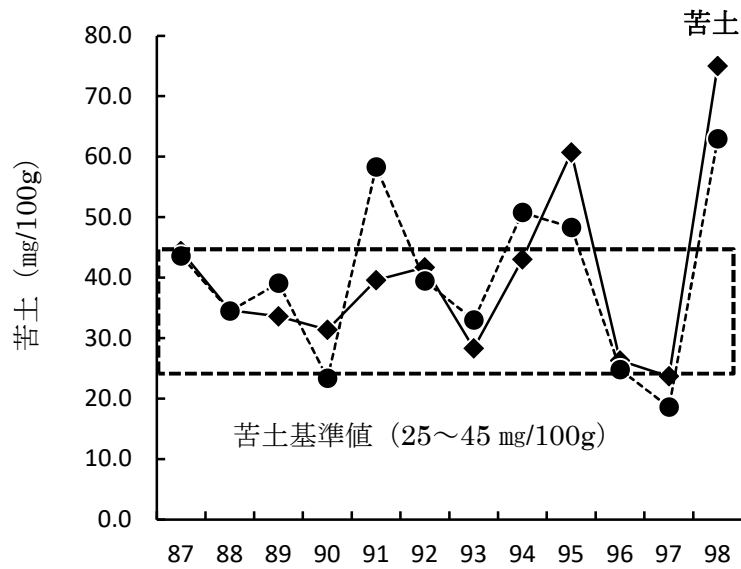
※87～91 月浦地区



◆マグネシウム

マグネシウムは大半の観測点で基準値の範囲内に収まっている。

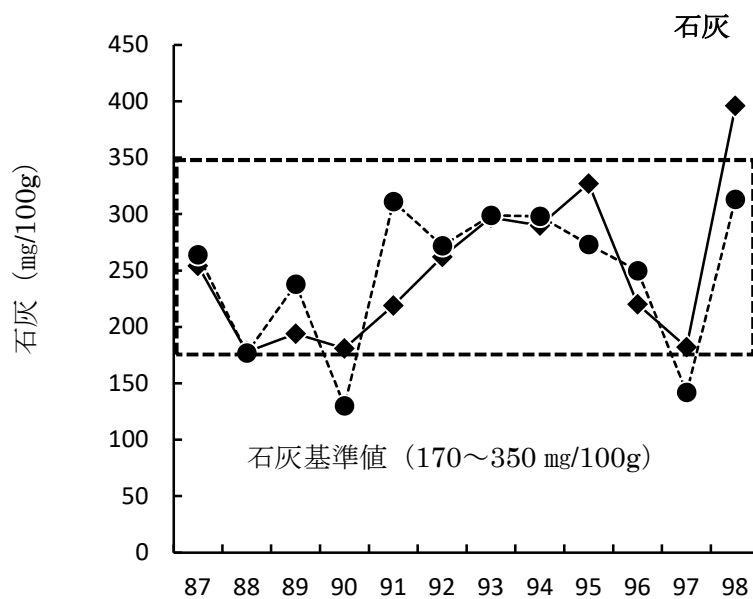
※87～91 月浦地区



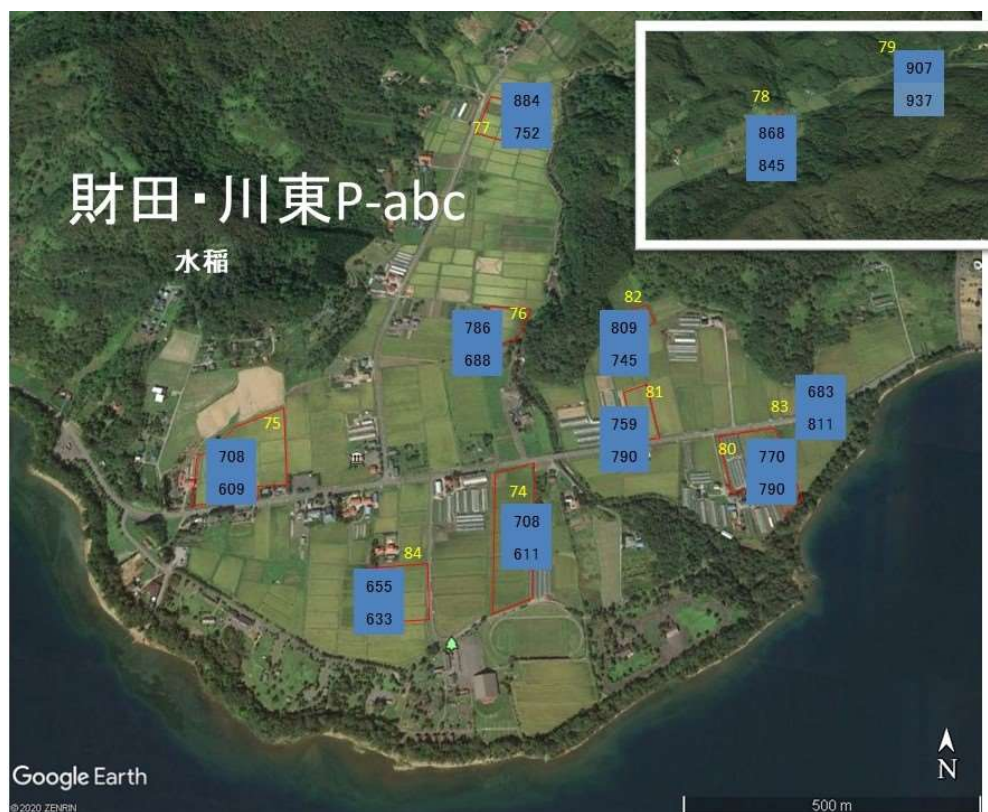
◆カルシウム

カルシウムはほぼすべての地点で基準値の範囲内に収まっている。

※87～91 月浦地区



財田・川東地区の土壌特性



地域	pH	EC	Br-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
財田	5.83	0.039	63	200	31.9	15.4	13.3	2.0	810	2.41
川東	5.90	0.040	64	198	30.1	18.8	12.6	1.9	735	2.25

洞爺湖畔で「財田米」の生産が盛んな水田地域は、ソウベツ川を挟んで「財田」と「川東」に分けられているが、土壌性質にそれほど変わりはない。

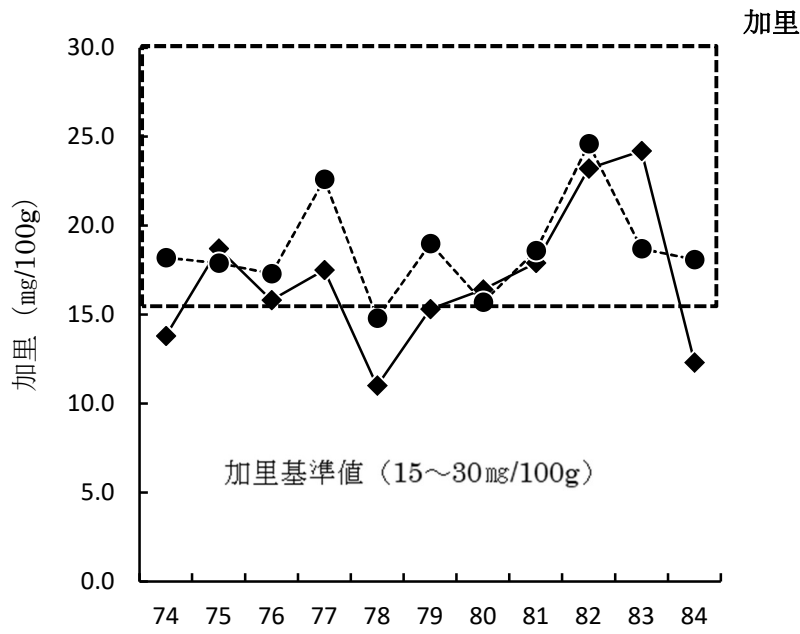
本地区は扇状地の砂地という恵まれた土地条件、温暖な気象条件を活かし、品質の良い水稻生産を中心に行っている。

【財田地区】と【川東地区】は加里・苦土石灰がバランスのよい状態であり、リン酸吸収係数も洞爺高台地区に比べ低く、有効態リン酸が多いと思われる。

水稻及び施設経営については土壌が砂壤土であることから、生産物の食味が良いものの、肥料及び農薬の保持力が低いことに注意する必要がある。

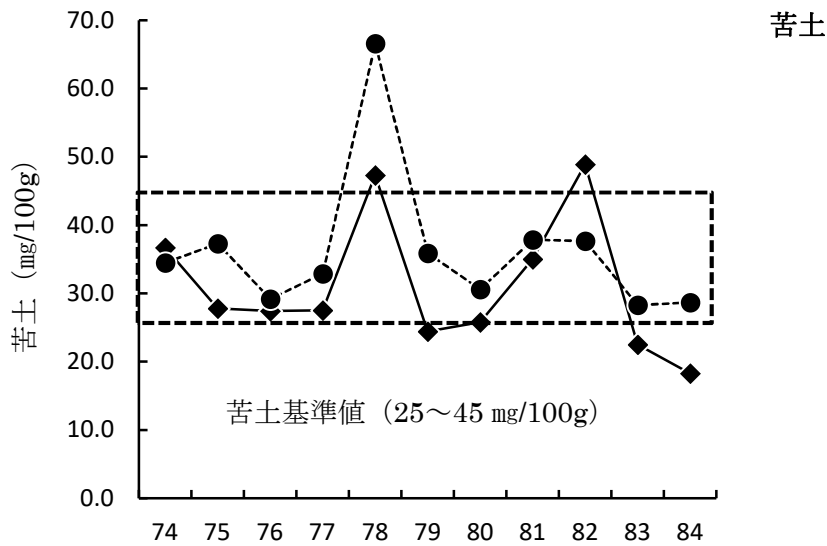
◆ カリウム

採取土 0—20 cm (◆) 及び 20—40 cm (●) の両方で基準値内に収まっている地点が多くみられたことから、全体的に改善は不要とみられる。



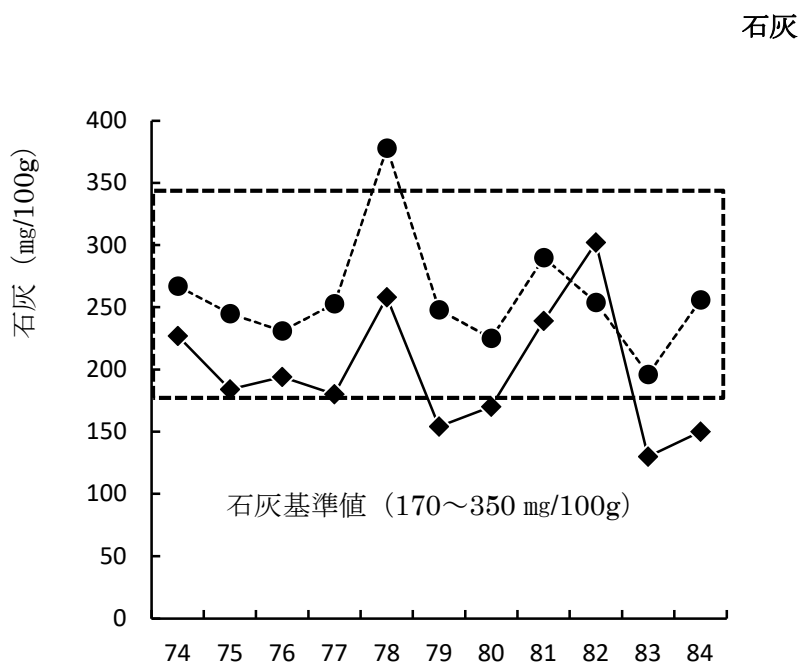
◆ マグネシウム

マグネシウムは大半の観測点で基準値の範囲内に収まっている。



◆ カルシウム

カルシウムはほぼすべての地点で基準値の範囲内に収まっている。



洞爺地区の土壌特性



地域	pH	EC	Tr-P	Br-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
洞爺1	5.55	0.085	50	-	141	25.7	46.8	11.4	2.8	547	2.49
洞爺2	6.49	0.096	303	-	378	74.6	78.5	18.0	9.1	590	2.92
岩屋	6.08	0.035	21	-	255	42.7	25.8	15.5	2.8	793	2.16
旭浦	6.36	0.054	-	48.4	273	49.2	12.4	14.6	3.3	628	1.73

財田・川東地区を除いた洞爺下台地区を「洞爺地区」「岩屋地区」「旭浦地区」に分けて土壌を採取した。

洞爺地区では道内でも有数の生産物である「セルリー」「赤しそ」が生産されるなど主に施設野菜が中心となっている。

施設については土壌養分過多の兆候が見られるなど、改善が必要な地点がある。

地区全体的に腐食が低いのが特徴で、一部施設野菜には養分過剰とも思われる数値が散見される。

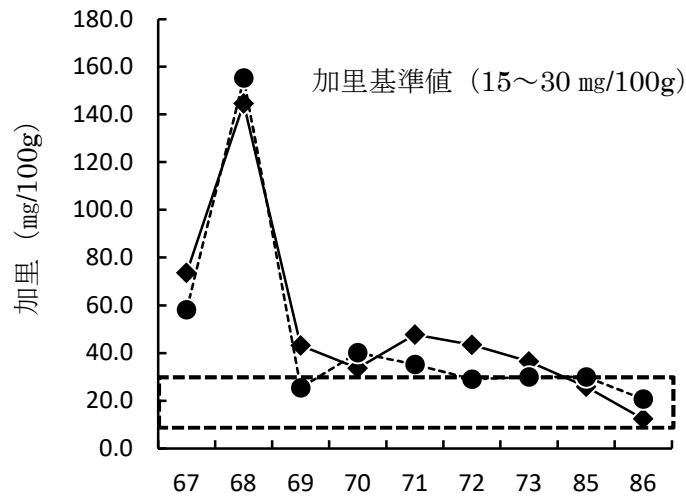
洞爺1地区と岩屋地区は全体的にリン酸吸収係数とCECが低く、保肥力が低い。

洞爺2地区はリン酸と加里が高く、生育障害が出るおそれがあることから注意が必要である。

◆カリウム

採取土 0—20 cm (◆) 及び 20—40 cm (●) の両方で基準値を超えている地点が多くみられ、養分過多と思われることから、全体的に改善が必要と考えられる。

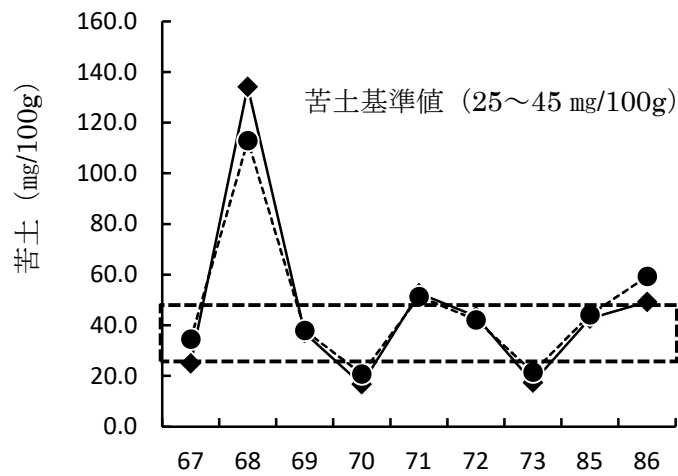
加里



◆マグネシウム

マグネシウムについても過剰な地点が見受けられる。

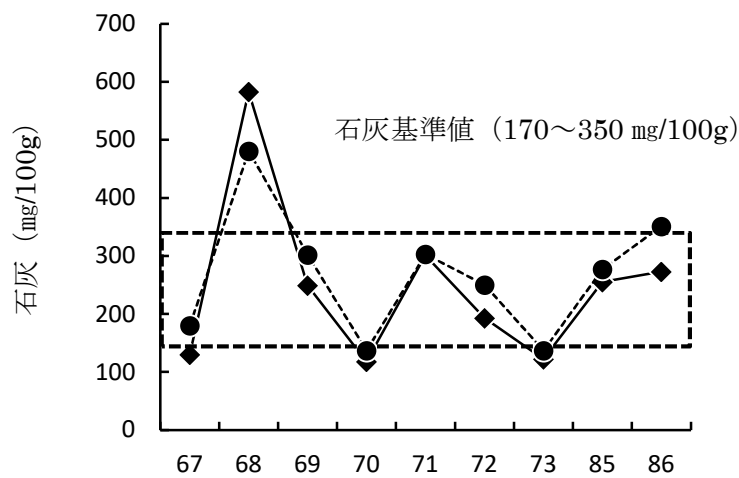
苦土



◆カルシウム

カルシウムはほぼすべての地点で基準値の範囲内に収まっているが、一部基準値を大幅に超える地点がある。

石灰



虻田地区の土壌特性



地域	pH	EC	Br-P	CaO	MgO	K ₂ O	CEC	熱抽N	P-abc	腐植
虻田	6.32	0.079	66	282	46.7	37.1	15.2	1.9	602	3.08

旧虻田町の虻田地区の土壌特性については、市街地を囲む清水・三豊地区、入江地区を中心に土壌採取を行った。

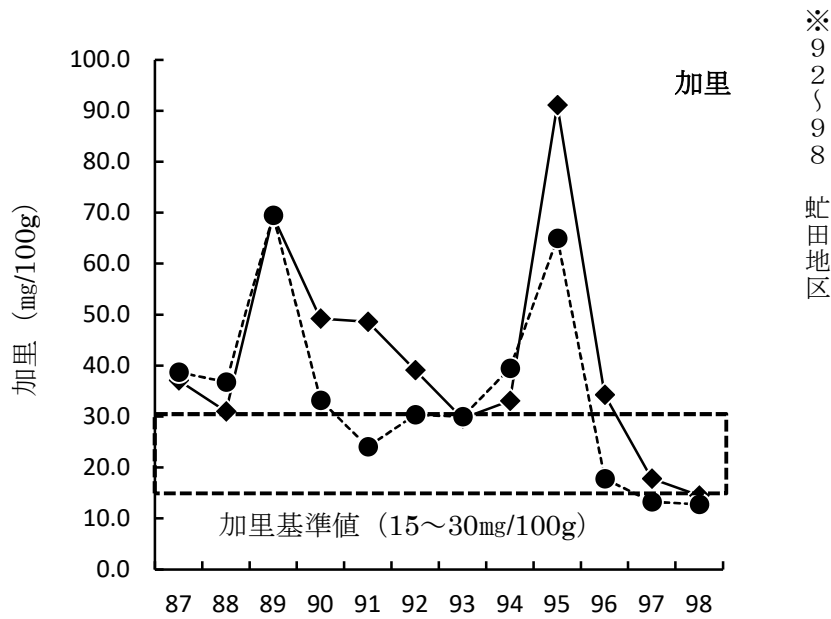
虻田地区の農業は主に水田経営、高級菜豆を生産する畑作経営、酪農に分類され、従来より町の産業の一端を担ってきたが、最近では高齢化と後継者不足により、栽培面積は減少している。

土壌の特徴としては、リン酸吸収係数は低く、リン酸と加里の数値が基準より高く出ている傾向がある。

熱水抽出窒素とCECは低く、肥料の保肥力も低い。

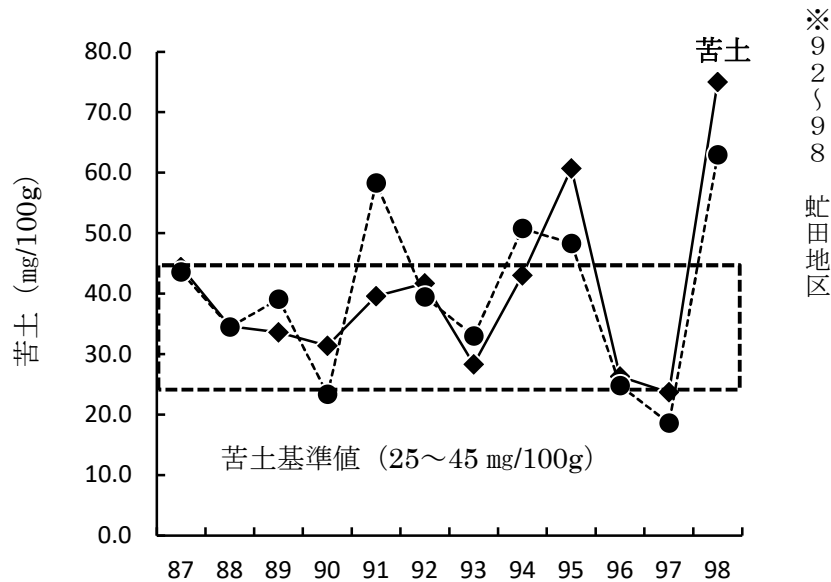
◆カリウム

採取土 0—20 cm (◆) 及び 20—40 cm (●) の両方でほぼ基準値を超えている地点が多くみられたことから、全体的に施肥設計の見直し等改善が必要と思われる。



◆マグネシウム

マグネシウムは大半の観測点で基準値の範囲内に収まっているが、一部基準値を超えている地点がある。



◆カルシウム

カルシウムはほぼすべての地点で基準値の範囲内に収まっているが、一部基準値を超えている地点がある。

